

Application for Participation

*Associated Schools Project (ASP)
for Promoting International Education*

「ぼくたち、わたしたちの町 “幸”」

～ “幸” の宝「清水池」を守る，地域の環境を守る，地域の文化を守る～

Outline of the way the Project(s) will be implemented in the institution

(please use extra sheets if necessary)

Description of the Project (プロジェクトの概説)

本校では、これまでも校地に隣接する「清水池」との関わりを中心として、資源のリサイクルを地域とともに展開するなど地域に根ざした教育活動を実践してきた。そこで、さらに地域とともに地域から学ぶ持続可能な社会づくりの担い手を育む教育（E S D）を推進しようと考えた。

平成 22 年度には豊橋市の公園緑地課と協力して清水池の池干しをした。外来魚であるブラックバスやブルーギルの駆除をし、在来魚であるコイやフナを守ることを4年生を中心に全校体制で行った。また、清水池を守るために子どもたちが製作した「幸の宝、清水池」をアピールする看板を池の周りを中心に校区内に立てた。豊橋市も、ブラックバスなどの放流や釣りを禁じた立て看板を今までにもつくっていたが、今回は子どもたちの手による学校からのメッセージの発信という点で効果が現れていると考えられる。

このことを「持続発展教育」（E S D）の推進に結びつけていくために、これまでの教育課程を見直し、生活科・総合的な学習の時間を中心に児童会活動や校区への情報発信活動も関連づけた E S D アクティビティプログラムを策定し、実践を行っていくこととした。

この E S D アクティビティプログラムを基に継続実践していくことで、将来にわたって地域のよさに気づき、地域の誇りと地域への愛着を育んでいくことができると考えている。

Objectives of the Project (プロジェクトの目的)

本校では、E S D への取り組みの入り口を、環境保全の立場からとしたい。なぜならば、本校の児童は学校創立以来、校地に隣接する「清水池」の環境を守るための活動や学習を続け、そこを出発点として、自分たちの住む町“幸”の文化や人とのつながりを学習してきたからである。さらに、創立から35周年を過ぎ、親子二代が幸小学校で小学生時代を過ごすことになる家族が増えてきたため、「地域に密着した学校」という意識が強くなってきた。そこで、地域に根づいた文化の継続・伝承を図っていくことも目的のひとつとしたい。

そのために本校では、以下の4つの活動で次のような目標を掲げる。

(1) 「清水池」の環境保全をする活動

- ・ 毎年2回地域の方とともに「春・秋のクリーン作戦」
- ・ 豊橋市の公園緑地課と協力して行う「清水池の池干し」
- ・ 「清水池」の生態系の観察と水質検査

学校に隣接する遊水池「清水池」の環境を整美する「クリーン作戦」や「四季折々の観察」を継続的に実施することで、環境保全への注意を喚起し、地域に向かって環境美化の意識を発信する。

(2) 定期的なリサイクル運動・緑化運動を地域へ発信する活動

- ・ 毎月児童会が中心となって行う「リサイクル運動」
- ・ 栽培委員会が中心となって行う「花いっぱい運動」

P T Aが主催する年間2回の資源回収活動とは別に、児童会が「空き缶」、「牛乳パック」、
「ペットボトルキャップ」の3種に特化してリサイクル運動をすることで、地域全体の環境美化
や資源のリサイクル意識の向上につなげる。

また、栽培委員会が中心となって校内を「花いっぱいにする運動」を行うことで、学校から隣
近所へ、さらに校区やより広い地域に対して愛着がもてるようにする。

(3) 地域に伝わる文化に触れる活動

- ・ 校区内の神社「御幸神社」に伝わる「花祭り」の学習、祭りへの参加
- ・ 幸地区（高師原）開拓の歴史の学習

伝統文化や開拓に関する先人たちの労苦を知り、より心豊かな社会の創出や自然との共生、地
域とのつながりを尊重し、将来にわたって地域の一員として生活するようになる。

(4) 行事等を関連づけた活動

- ・ 運動会、幸っ子エンタ、夏休み作品展、授業参観（年間4回）、老人交流会（年間2回）、
挨拶運動毎月1回、自治会主催年間4回）、地域の福祉施設との交流会

児童、保護者、教員、地域住民が一体となって成果を発表する機会をもつことで、地域の誇り
や地域への愛着心を育み、人とのかかわり、つながりを重視していく姿勢を養う。

Execution（プロジェクトの実施）

本校では、前述の目的のとおりE S Dへの取り組みは環境保全ということを経として学習を進めていく。
その学習を深めていくことで、町の発展と環境の関連性、人のつながりや社会の一員としての価値観を見
出し、共有する基礎的な能力を養うことができると考えている。また、それは持続可能な社会づくりの担
い手を育てる教育にほかならないととらえている。

幸校区の源は、戦後の食糧増産と失業対策のために、高師原の開拓へ入植政策がとられたことに始まる。
荒地が農地になり、それが宅地へと70年足らずの間に大変な変貌を遂げてきた。高度経済成長ととも
に人口が増え、周辺学区から分割独立して幸小学校が誕生した。地域の先人たちの努力と清水池の存在は、
幸小学校の児童とは切っても切れないものである。その中で子どもたちがすすんで幸を知ろうとし、自分
の思いをもとに幸を語ろうとすることができれば、他人との関係性や社会との関係性を理解し、協調して
共生しようとする子どもを育てることができると考えた。

各学年で目標を達成するために、総合的な学習の時間や生活科等で地域学習と行事とを関連づけて活動
を進めていく。そのための実践計画として、E S Dアクティビティプログラムを作成して実践を進める。

○各学年と地域とのかかわり

- ・ 1年生：春・夏・秋・冬の清水池
- ・ 2年生：清水池や校区の虫や植物
- ・ 3年生：ぼくたちわたしたち みゆき探検隊（校区を知ろう、昔の遊びを伝えよう）
- ・ 4年生：ぼくらは幸エコレンジャー（校区のエコを考える）
- ・ 5年生：人にやさしい町 幸（校区の中のバリアフリー）
- ・ 6年生：わたしたちと防災～信じてつなげよう、命と絆～（校区自治会と連携した防災の取り組み）

○「清水池」の環境保全をする活動

- ・ 全 学 年：「クリーン活動」
- ・ 1～3年生：「四季折々の生態観察」
- ・ 4～6年生：「清水池の水質検査など」

○定期的なリサイクル運動・緑化運動を地域へ発信する活動

- ・ 5～6年生：リサイクル運動を児童会役員会が主宰し、クラスごとで回収を担当

- ・全学年児童・保護者・地域一般住民がリサイクル運動に参加
- ・栽培委員会が主宰し、校内花壇やプランターで花を栽培

○地域に伝わる文化に触れる活動

- ・分村元の豊根村・富山村で行われている「花祭り」の学習、祭りへの参加
- ・地域のお年寄りたちとの交流

○行事等を関連づけた活動

- ・成果の発表や披露のための活動

(1) 活動を進めるためのESDアクティビティプログラム (平成22年度4年生の例)

教科領域	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
社会			開拓の歴史								
理科			水質検査		水質検査			水質検査		水質検査	
総合									池干し		
行事							幸っ子エンタ				

(2) 「清水池」の環境保全をする活動



平成22年度「清水池 池干し」
(ブラックバスやブルーギルは駆除、コイやフナはプールへ避難)



平成23年度「清水池へ在来魚を戻す」
(プールへ避難していたコイやフナを清水池へ戻す。)



清水池「春のクリーン作戦」

(3) 定期的なリサイクル運動・緑化運動を地域へ発信する活動



リサイクル運動 高学年のリーダーシップのもと、保護者もお手伝い。

(4) 地域に伝わる文化に触れる活動



3年生 昔の遊びを伝えよう（老人会との交流会）



天然記念物「高師小僧」を知ろう

Type of materials to be used (使用する教材)

「小学校キャリア教育の手引き」

文部科学省 平成23年5月 (WEB版)

「かがやくとよはし」 平成23年4月1日発行

編集：豊橋市立小学校社会科副読本研修委員会

発行：豊橋市教育委員会 印刷：株式会社アプライズ

キャリア教育推進の手引「小中学校9年間を見通したキャリア教育」

愛知県教育委員会義務教育課 (WEB版)

「キャリア教育ノート」夢を見つけ夢をかなえる航海ノート

愛知県教育委員会 (WEB版)

Is there any type of evaluation to examine the effects of the project on students' comprehension and attitudes? (プロジェクトに対する生徒の理解と姿勢の評価方法)

指導教師は、ふだんの生活の中でも児童の態度・姿勢を観察し、プロジェクトの後には振り返りカードへの記述によって評価する。

それとともに、以下のような評価方法をとる。

- ・ 児童のさまざまな活動への成果を、事後のまとめや感想などから把握する。
- ・ 学習や活動のまとめとしての授業公開や夏休み作品展，行事（幸っ子エンタ：学芸会）等での成果の発表や地域への発信を通して，関心・意欲・態度等を観察し，評価する。

上記の評価とともに，学校評議員を通じた地域からの評価や，行事・保護者会後のアンケート調査，年間2回の全保護者を対象としたアンケート調査等から，E S Dアクティビティプログラムの見直しを図り，地域とともに生きる幸っ子を育成するための活動内容を改善していく。

On behalf of my institution, I apply for participation in the UNESCO Associated Schools Project and give the assurance that this institution will make an active contribution to the Project, as outlined above, for a minimum period of two years. At the end of every year, I shall submit a report of the Project to the ASP National Co-ordinator of my country.

(本学校を代表して，ユネスコA S Pの参加申請をし，少なくとも2年間は上記概要にそってA S Pに貢献する活動を行うことを確約します。また，毎年A S Pコーディネーター（※日本の場合は日本ユネスコ国内委員会）に活動のレポートを提出します。)

8 / 1 / 2 0 1 3

Date (日付)

Principal' s name (校長名 (※直筆))

Position, (役職) Principal

Institution' s name (学校名)

Toyohashi municipal MIYUKI elementary school